



TITLE:

我國ニ於ケル營利心ノ起源及ビ其  
ノ發達ニ就イテ

AUTHOR(S):

銅直, 勇

---

CITATION:

銅直, 勇. 我國ニ於ケル營利心ノ起源及ビ其ノ發達ニ就イテ. 經濟論叢  
1918, 6(2): 200-212

ISSUE DATE:

1918-02

URL:

<https://doi.org/10.14989/127333>

RIGHT:

## 我國ニ於ケル營利心ノ起源及ビ其ノ

## 發達ニ就イテ

銅 直 勇

抑々社會現象ハ心ト心トノ網狀の相互關係ナリ。原因結果ノ不斷永劫ノ連鎖ナリ。故ニ一時代ノ文化、一時代ノ精神の產物ハ其前代ニ於ケルアラユル人間活動ノ總和の所產ナリ。從ツテ其ノ一隅ヲ學ケント欲セバ又能ク其ノ萬隅ヲ學ゲザルベカラズ。吾人ガ我國ニ於ケル營利心ノ起源及發達ヲ研究セントスルハ、決シテ容易ノ業ニアラザルナリ。今ハ只其ノ主ナル因素ヲ析テ、ソノ如何ナル因素ニヨリ如何ニシテ成立セシカヲ略時間的順序ニ於テ少シク叙述スル所アラントス。

- 一 太古人ノ生活觀ト營利心ノ起源
- 二 貴族階級ト營利心
- 三 鎌倉時代ノ武士階級ト營利心
- 四 商人ノ分化ト金錢至上思想
- 五 金錢觀思想ノ發生
- 六 佛教ト營利心
- 七 戰爭ト企業精神
- 八 戰國武士ト金錢慾
- 九 町人階級ノ確立ト營利心ノ發達

## 一 太古人ノ生活觀ト營利心ノ起源

太古未ダ貨幣ノコレナカリシ時、人類ガ財産・幸福・利益等ニ就イテ如何ナル觀念ヲ有シタリシカ、コレ倫理學上・經濟學上・社會學上極メテ興味アル問題ナリトス。而シテ吾人今我國ニ於ケル營利心ノ起源ヲ源ネントスルニ當リ、又先ヅ此等ノ諸點ニ就イテ攻究スル所ナカルベカラズ。然レドモコレヲ研究セントスルニ當リ殆ンド何等直接的資料ノ存スルコトアルナシ。思フニコレヲ現存未聞人ノ心理ヨリ類推スルモ亦一方法タリトイヘドモ、今ココニ言語學的研究ニヨリテ少シク之レガ説明ヲ試ミントス。

思フニ國語ニ「さち」「さき」ナル語アリ。二語共ニ或ハ漁獵・狩獵ノ具、或ハ山海ノ獲得物、或ハ更ニコレヲ抽象のニ幸福ノ意ニ用フ。

註一 故火照命者、爲海佐。知昆古而取鱈廣物諸狹物、火遠理命、爲山佐。知昆古而取毛蟲物毛柔物、爾火遠理命訓其兄火照命、

各相易佐。知欲有、三度雖乞不許云々(古事記)

二 兄火闌降命有海幸。幸此云左知弟彥火々出見尊自有山幸、始兄弟二人相謂曰、試欲易幸、遂相易之各不得其利、兄悔之乃還

弟弓箭而乞已鈎。(日本書紀)

三 故後木花之佐久夜毘賣、參出曰、妾妊身今臨產時、是天神之御子、私不可產、故請諸神、佐久夜毘賣一宿養好、是非我子、必國神之子、爾答曰、吾妊之子若國神之子者座不幸、若天神之御子者幸云々(古事記)

四 佐伎久伊麻志豆云々(萬葉集卷五)

五 「さいはひ」「さきはひ」ノ音便ナリ。

然ラバ佐知・佐伎ノ語源ハ如何。本居宣長ハ古事記傳ニ於テさちハ幸取ノ略ナルベシトナス。シカモさきニ就イテハ別ニイフ所アルナシ。吾人思フニさき・さちノさハ小夜・狹霧ノさト同ジク單

ニ無意味ノ發語タルニ止リ、き・ち、即チ其ノ語幹タルベシ。而シテち・きハ音韻互ニ通ズルモノナリ。

註 日本書紀ニ意貴奈波ヲ阿兒奈波島ト書シタルガ如キ(聖武紀天平勝寶五年ノ條參照)、又延喜式ニ見ユル讃岐ノ河内驛ガ和

名抄ニ甲知郷トシテ加久知ト訓ヰラレ居ルガ如キ、即チコハかふち、かつち、かくちト轉ジ來レルモノナルベシ(吉田博士

大日本地名辭典參照)。又音 正ガ「ヒキ」トナレル又コノ一例ナリ。彼ノ形容詞ノ語尾變化、過去ノ時ノ助動詞ノ變化ニ

於テモミ行・カ行相混ズルヲ見ル。而シテし・ちノ如キハ其ノ音近ク今日じ・ぢハ我國人ノ發音ニ於テ殆ンド區別スルコトナ

シ。蓋シウ、Chirash, Jichu, Uchi, Ichi 等ノ音ハ互ニ相通ズル唯一歩ノミ。

更ニ其ノ語義ニ就イテ見ルニち・き共ニ凡ク鋳出ノ物ヲイヘルガ如シ。牙・柱・乳・血・鈎・葱・木・杵・牙・先・崎(コノ二語トモニ其ノさハ發語ナリ)即チコレナリ(柵・城ハ木柵ニツキテイヘルカ或

ハ猶高起突出ニヨリテイヘルモノナルベキカ)。而シテ漁獵ノ具タル鈎ガちト稱セラレタルハ日本

書紀神代卷ニ踞蹠之鈎此云須須能賦云々トアルヲ以テ知ルベシ。(宣長ハコノ鈎字ヲ以テ鈎ノ誤字

ナリトイヘドモ必ズシモ然カ考フルノ必要ナシ。)カクノ如クナル時ハ吾人ハさき・さちナル語ハ

其ノ初メ漁獵ノ具ヲイヒ、轉ジテ漁獵・狩獵ノ獲物ノ意ニ用ヒラレ、同時ニソガ動詞トシテモ用

ヒラルルニ至リシモノト考フルヲ得ベシ。而シテコノ語ハ更ニ又幸福ノ意味ニモ用ヒラレタリ。

吾人ハ前註第三古事記ノ引文ノ示ス所ニヨツテ當時ノ幸福ナルコトガ單ニ只肉體ノ保全ヲ意味ス

ルニ過キザルヲ知ルヲ得。是ニ於テカ吾人ハ古事記・日本書紀ノ撰者ガ獲物ニ宛ツルニ幸又ハ利

字ヲ以テシタルコトノ甚ダ妙ナルヲ見ル。何トナレバ當時ニ於テハ、タダ肉體ノ保全即チコレ彼

等唯一ノ幸福ナリシナレバナリ。而シテ我大和民族モ其ノ初メ漁獵・狩獵ヲ以テ其ノ唯一ノ生産

業トナシ農業ハ後ニ他民族トノ接觸ニヨリテ始メテ習熟スルニ至リシガ如キコト記・紀ノ記載ニ  
ヨツテ略々推斷スルヲ得ベシ。故ニ當時ニ於テ彼等ノ所謂幸福フク即チ肉體ノ保全ヲ期スベキモノハ  
此等山海ノ獲物ウツヲ措サイテ他アルコトナカリシモノトイフベシ。

註 支那ニ於ケル利字ノ成立ガ我國ニ於ケルト全ク其揆ナニスルヲ見ルハ甚ダ興味アリ。

說文曰、利銛也。段玉裁註曰、銛者重鋸、引伸爲銛利字、銛利引伸爲凡利害之利

廣韻曰、吉也宜也。(易賁卦曰、利有攸往。)

又幸ノ古文幸ナリ。

說文曰、齊吉而免凶也、从前从夭、夭遘死之事、死謂之不幸。段氏註曰、前者不順也、不順從夭死之事云々

即チ利字ハ禾ニ从ヒ刀ニ从フ。其ノ初メ尖端銳出シ以ツテ魚ヲ刺スノ漁具タリシモノ轉シテ獲物ノ意トナリ再轉シテ凡ク利  
益ヲ意味スルニ至リシナリ。又幸トハ其ノ初メ只生命ヲ完ニスルノ意ニ外ナラザリシナリ。記・紀ニさちニ宛ツルニ幸利ノ  
二字ヲ以テセシコトノ甚ダ適切ナルヲ見ル。

然ラバ國語まうけノ意義如何。吾人ハ今此ノ語ニ與フルニ利益ノ意ヲ以テスレドモ更ニ其ノ語  
源ニ溯ルトキハまうけ即チまけ(設備)ノ延、即チ以テ當ニ來ルベキヲ待ツノ謂ニ過ギズ。故ニ後  
世皇太子ヲまうけのきみトイフ。詩キノ意亦秋時ノ收穫ノ用意ヲナスノ謂ナルニ似タリ。吾人ハ  
以上ノ説明ニヨツテ我國太古ノ人民ガ抱懷セル幸福觀念、利益觀念ノ如何ナルモノナリシカラ察  
知シタリ。ソノ最モ主要ナル食物ヲ山海ニ獲ル、コレ彼等ガ唯一最大ノ利益也。而シテコレヲ以  
テ能ク自己ノ肉體ヲ保全シ得バコレ彼等ガ最上ノ幸福ヲ得タルモノナリ。彼等ニハ始メ營利ノ念  
ハ毫モコレナカリキ。人ヲ待ツテ歡宴ノ備ヲ設ケ、秋穫ヲ待ツテ春其ノ種子ヲ蒔ク、コレ即チ彼

等ノ所謂まうけナリシナリ。

次ニ財寶<sup>タカラ</sup>ノ意義如何トイフニ、大槻博士ハ其ノ言海ニ「田<sup>タカラ</sup>自」ナランカトイヘドモ、コレ我民族ガ農業時代ニ入りテ始メテ財ナル言語若シクハ觀念ヲ生ジタリトノ説ニ歸着スルモノナルヲ以テ遽ニ採ルベカラズ。蓋シ我太古ニ於テたからトハ主トシテ裝飾品・武器・器具等ヲイヘルモノナルコト、彼ノ劍・鏡・璽ガ「三種寶物」ト稱セラレ、潮瀾境・潮瀾境ガ「一種寶物」ト日本書紀ニ掲ゲラルルニヨリテ知ルヲ得ベシ。或ハソレたからものトハ伽羅物ノ義ニシテ、其ノ初メ伽羅國等ヨリセル優秀ナル外國舶來品ヲ意味スルニ起リシモノニアラザルカ。姑ク記シテ他日ノ確證ヲ待ツ。既ニたからナル語アリ。從ツテ蓄藏<sup>オクハ</sup>ノ語ナカルベカラズ。思フニたハ發語ニシテたくはハ即チ加ふノ意ナルベシ。魚及ビ鳥獸ハ久シク貯<sup>オク</sup>フベカラズ、又當時ニアリテハ殆ンド隨處隨時ニ之レヲ得ベキガ故ニ貯藏ノ必要アルコトナシ。サレバ其ノ初メニ於テ武器裝飾品及ビ其他ノ器具ノ所有ヲ増加スルコトコレ即チ彼等唯一ノたくはヘナリシナリ。彼等ハ或ハ一種ノ魔術的信仰ノ爲メニ、或ハ自己ノ生命ヲ防護シ、又以テ他人ノ前ニ自己ノ美ヲ示サンガ爲メニ、或ハ衣食住等ノ日常行爲ニ資センガ爲メニ之レヲ所有セント欲ス。シカモ其ノ所有ノ數ヲ増加セントスル、必ズシモ他日ノ缺乏ニ備フルノ要アルガ爲メニアラズ。只ソノ獲得或ハ所有使用ノ快ノ爲メニスルノミ。即チ知ル獲物<sup>ウケモノ</sup>ヲ得ルコトト此等ノたからヲ有スルコト、コレ我太古民族ガ唯一ノ所得慾タリシナリ。而シテ金銀ハ此等ノ裝飾品トシテ最モ欲スベクシテ而カモ我國ニコレナカリシモノ、彼等ニコレヲ知ルニ至ツテ其ノ新ナル欲望ハコレニ對シテ向ケラレタリキ。

日本書紀一書云、素盞鳴尊曰、韓國之島、是有金銀、若使吾兒所御之國、不有浮寶者末是佳也。朝鮮ハ金銀ノ產地トシテ我「神々」ノ夙ニ注目シタル所ナリキ。神功皇后ノ三韓征伐ノ如キ其一因ハ確ニニコノ黃金慾ニ存シタルコト史家ノイフ所ノ如シ。古事記ニ西ノ方ニ國アリ金銀ヲハジメテ目ノ耀ク種々ノ珍寶其ノ國ニサハナルヲ吾今其ノ國ヲヨセ賜ハントイヘリ。而シテソノ遂ニ之レヲ征服スルヤ金銀彩色及ビ綾羅縑絹等ノたからものヲ八十艘ノ船ニ乗セテ目出度凱旋シ給フ。

たからノ意義右ノ如シ。シカモ農業漸ク發達シ貨幣ノ鑄造行便サルニ至リテヤ田畑・牛馬・奴隸・稻・布・錢等ノ諸物ガ財産若シクハ貨幣トシテ蓄積・使用セラルニ至リたからノ意義亦從ツテ一變セザルヲ得ズ。カクテ貧富ノ差別\*

\*註 我國文獻ニ於ケル「貧」「富」ノ初見。

神代紀一云、……又教曰、兄作高田者、汝可作渚田。兄作高田者、汝可作高田、海神壽誠奉助如此矣、時彥火々出見尊既歸來、遵神教依而行之、其後火辭彥命、日以盛饒而盛之曰、吾已貧矣云々

崇神紀、三十五年秋季九月造五十瓊敷命命于河內國、作高石池茅渚池、冬十月作倭城他及跡見池、是歲令諸國、多開池渚數八百、之以農爲事、因是百姓富寬天下大平也。

吾人ハ彥火々出見尊ナル神ガ何レノ時代ノ神ナルカ、又カカル傳説ガ何レノ時代ニ如何ニ創設・變改セラレタルカチ明ニスル能ハザルヲ以テ貧富ノ差別ガ果シテ何レノ時代ニ始リシカナ歴史學的ニ闡明スルコト能ハズトイヘドモ、カカル差別ヲ生ズルニ至リシハ正ニ農業ノ發達ト相俟ツモノナルコト明ナリ。右ニ擧ゲタル引文ガ何レモ農事ト相從ヘル適當ニ然ルベキナリ。

論 說 我國ニ於ケル營利心ノ起源及ビ其ノ發達ニ就イテ

第六卷 (第二號 五三) 二〇五

ヲ生ジ、財ノ獲得・生産・消費ガ人間關心ノ重要目的トナリ來ル。加フルニ韓土及支那トノ交通頻繁ニ行ハルルニ至リテ優秀ナル器物・物貨ガ彼ノ土ヨリ齎サレ、或ハソノ歸化人ノ手ニヨツテ生産セラルルニ及ビ、又此等高等ナル文化ヲ有シ進歩シタル經濟觀念ヲ有スル外人・歸化人ト相接觸スルニ及ビ、我國人ノ財産慾・營利衝動ハコ、ニ一層ノ發達ヲ見ルニ至リシヤ疑フ容レズ。而シテ其ノ欲望・衝動ガ、先ヅ其ノ知識ノ發達シ、又此等財産ヲ獲得・所有・蓄積・消費シ得ルノ自由ヲ有スル貴族階級・僧侶階級及ビ此等高等ナル文化ト進歩シタル經濟的觀念或ハ才能ト、優秀ナル生産技能トヲ有スル外人ノ間ニ於テ最モ著シキ發達ヲ見タルコト怪シムニ足ラザルナリ。

## 二 貴族階級ト營利心

抑々奈良朝ニ於ケル我貴族階級ハ其ノ所有ノ半自由民及ビ奴隸ヲ驅使シテ盛ニ土地ノ開墾ヲ試ミ、其ノ猛烈ナル利慾心ハ我國ノ農業及ビ其他ノ産業ニ一大進歩ヲ與ヘタリ。而シテ土地兼併ノ弊害ノ漸ク大ナラントスル時、ココニコレヲ破壊スベキ大化革新ノ行ハルアリ。然カモ土地ノ所有權ヲ殆ンド絶對ニ非認シ、取得自由ヲ極度ニ束縛スルガ如キハ人間心理ノ自然ニ反シ又實ニ經濟的進歩ヲ阻害ス。後チ私墾田私有ノ公認ト莊園ノ濫興トハ貴族階級ト僧侶階級ト牢平拔クベカラザル勢力タラシメ、農民營々ノ結果タル餘剩價值ハ遠ク中央帝都ニ運ビ去ラレテココニ燦爛タル奈良朝及ビ平安朝ノ文化ヲ作ルノ資トナレリ。蓋シカクノ如キ狀態ハ社會進化・文化發展史上何レノ國モ一度ハ通過セザルベカラザリシ過程ナリトイヘドモ、コレヲ其ノ個人ニ就イテ考フ、



其ノ境ヤ亦隣ムベキモノアリ。サレバ欽明天皇ノ三十年早クモ皇室附屬ノ隸民タル田部ノ民等課役ヲ免レントシテ籍帳ヲ脱スルモノアルコト史ニ見エ、以後此ノ患益々多キヲ加フ。蓋シ王代ノ浪人、中世ノあふれ者、徳川時代ノ遊民、明治以後ノ農村問題、觀來レバ千年ノ歴史今ニ同一ノ患ヲ訴フ、亦已ムヲ得ザルノ勢ナリトイフベシ。

カカルガ故ニ此等憐ムベキ農民ヲソノ貧窮裡ヨリ救ハンガ爲メコニ出舉貸借ノ法ヲ設ケ一定ノ利ヲ收メテ官稻ヲ貸出スルニ至レリ。シカモ其ノ弊ヤ從ツテ又生ジ浮浪ノ民ハコレニヨリテ愈々増加ス。蓋シ其ノ始メ一ノ救濟手段タリシ出舉ハ終ニ其ノ利稻ヲ以テ國衙ノ費ニ充ツルニ至リ何人モ必要ナクシテ猶班舉ノ稻ヲ受ケテ利稻ヲ拂ハザルベカラザルニ至ル。國司亦此ノ間ニ乗ジテ不正ヲ働キ以下ノ小官各之レニ倣ツテ出舉ヲ行ヒ、僧尼亦法令ヲクグリテ其ノ禁ズル所ノ利殖ヲ事トス。朝廷ト官吏貴族ト僧侶ト滔々相率キテ利殖ヲ營ムニ至リシナリ。

註(一) 續日本紀天平九年九月、寶龜十一年十一月ノ條等參照。

(二) 同延暦二年十二月ノ條參照。

夫レ營利ハ後世コレ素町人ノ賤ムベキ業トシテ士君子ノ苟モセザランコトヲ欲シタルモノ、而シテ此等商人ガ分化シテ一定ノ店鋪ヲ有シ一ノ獨立ナル、商業專業者トナルニ至リシハ平安朝ニシテ、ソレ以前ニ於テハ猶商人階級ナルモノノ分化ナク、商業者ハ必ズシモ其ノ何レノ階級者タルヲ問ハザリシモノナルヲ注意セザルベカラズ。勿論大寶令ノ規定スル所ニヨレバ皇族及ビ五位以上ノ貴族ガ自己及ビ其ノ從僕等ヲ以テ賣買營利ヲナスコトヲ禁ジタリトイヘドモ、自己ノ生産品・

所有品ヲ市ニ賣リ、又人ヲシテ他處ニ貿易行商セシムルハ此ノ限リニアラザリシナリ。且ツ皇室猶親ラ市隱ヲ設ケ給ヒ朝廷ノ官吏ヲシテ土地人民等ト交易セシメラレタルコトアリ。<sup>(一)</sup>又地方官吏ニ令シテ糧食ヲ賣ラシメ以テ旅人ノ便ニ供シ、其ノ販賣高ノ多キヲ賞セラルルアリ。<sup>(二)</sup>日本靈異記ニ讃岐國ノ一大領ノ家族ガ酒ヲ賣リ利殖ヲ試ミ事毎ニ暴利ヲ貪リシガ如キ、<sup>(三)</sup>其ノ營利衝動ノ最モ猛烈ナルモノアルニ至レル亦怪ムニ足ラザルナリ。

註 (一) 令義解・十・雜。

(二) 續日本紀天平神護元年十月、同神護景雲二年十月條參照。

(三) 同和銅六年三月ノ條參照。

(四) 日本靈異記・強非理以微債取多倍而現惡死報緣第二十參照。

而シテ當時秦氏漢氏等ノ歸化人及ビ其ノ子孫ガ其ノ優秀ナル生産品ノ供給ニヨツテ次第ニ富ヲ蓄積シ、依ツテ以テ隱然タル一勢力ヲ成セルモノアルヲ注意スベシ。秦氏ノ如キ初メ諸貴族恣ニ之レヲ劫略驅使シテ自家ノ用ニ供シタルヲ以テ雄略十五年此等流徙ノ秦氏ヲ聚ムルヤ其ノ數實ニ一萬八千六百七十人、總テ之ヲ秦酒公ニ授ケ太秦ノ姓ヲ賜ヘリ。翌年更ニ諸國ニ分置シテ桑蠶ニ從事セシメシガ欽明元年其ノ戶數七千五百三十三ニ及ベリ。其ノ酒公トイフ或ハ其ノ初メ酒造ニヨツテ其ノ富ノ大ヲ致セシニヨルカ。欽明帝ノ時秦大津父亦伊勢ニ商シタリ。帝ノ信任ヲ得テ益々富ミ遂ニ大藏ノ吏ニ任ズ。蓋シ紀ニ天皇幼時夢有人云、天皇寵愛秦大津父者、及壯大必有天下トイヘル、恐ラクコレ彼レガ富勢ヲ利セバ彌々天皇ノ大ヲ致シ給ハンコトヲ説ケル者アリシヲ意味ス

ルモノナラン。其他秦川勝・朝元・島崎呂等ガ或ハ帝都ノ經營ニ關與シ、或ハ天下財政ノ要職ニ任ゼシ如キ、彼等ガ其ノ富力ニヨツテ政治上・經濟上如何ニ勢力ト材能トヲ有セシカヲ知ルニ足ラン。

註\* 喜田博士讀史百話參照。

コノ問ニ於テ賭博ノ具雙六ガ支那ヨリ齎サレンガ我一般人民ノ間ニ少カラザル利慾ノ念ヲ醸成スルニ至リシヲ見ル。而シテ其ノ弊害ノ漸ク大ナルヲ持統天皇三年コレヲ禁ジ、天平勝寶六年更ニ京畿七道ニ令シテ犯ス者ハ其ノ身分位階ニ應ジテ夫々刑罰ヲ加フベシトイフ。勅ニ官人百姓不畏憲法云々トイヒ、其ノ罰則ノ設定ガ四位以上ノモノニ及ベルヲ見ル。

以上吾人ハ主トシテ上代我國ニ於ケル財産慾・營利心ノ狀態ニ就イテ述べ來レリ。而シテ當時ニ於テ貨幣及ビ財産ハ主トシテ貨物ニシテ金銀ガ其ノ初メ我國ニ產出スルコトナカリシハ既ニ述べタルガ如シ。コレヲ產スルニ至リテモ其ノ量多カラズ、多クハ朝廷ニ於テ外國貿易・賞與・寄進等ニ使用セラレ、或ハ朝廷・貴族等ノ佛像其他器物・裝飾品等ノ製作ニ用ヒラレ、平安朝ニ入ルモノガ貨幣トシテノ流通・使用ハ猶一般のナラズ。シカモ其ノ光彩ノ燦然タル、何人モコレヲ欲セザルナク、其ノ之ヲ得ントスルヤ容易ナラズ。故ニ當時ニ於テ一般人ガコレヲ得ベキ唯一ノ方法ハ、即チタダ神佛ノ「御利益」ニヨツテ夢ノ如クニ忽焉トシテ與ヘラルト信ズルコトニ外ナラザリキ。寶ノ山ハ五百日程ノ海波ノ外ニアル蓬萊山ニシテ、之レニ至ルニハ死ノ苦ミヲ經ザルベカラズ。ソコニハ「世ノ中ニナキ花ノ木ドモタテリ。金銀瑠璃色ノ水流レ出デタリ。ソレニハイロノ玉橋

ワタセリ。ソノアタリ照リ輝ク木ドモタナリ、サレド「ソノ山ヲ見ルニ更ニ登ルベキヤウナキ」ナリ。蓬萊ノ山ハタダ夢ニノミ憶懷ルルゆゑとびあノミ。サレバ竹取物語ノ作者ハ賤シキ竹取ノ老爺ニ節毎ニ金アル竹ヲ發見セシメテ天晴ノ富豪トナシタリ。日本靈異記・今昔物語ヲ見ルニ、偶然ノ拾得、神佛ノ授與ハ當時ノ貧民ガ富・金銀ヲ得ル唯一ノ不合理の簡便法ナリシナリ。

錢ハ顯宗天皇ノ時銀錢ノコト紀ニ見エ、天武天皇ノ頃ニハ既ニ銅錢ガ行ハレ、持統天皇ノ朝鑄錢司ノコト見エ、和銅元年銅鑄發見セラレテ銀錢并ニ銅錢ヲ鑄ル。和銅開珎コレナリ。然レドモ當時ニ於テハ貨物貨幣ノ便ナルニナレテ我國一般人民ハ未ダ之レヲ好マザリキ。蓋シコハ當時ノ自然物經濟ノ狀態ニ於テハ當然ノコトナリシナリ。錢ノ用フベク錢ノ蓄フベキハコレヲ強制セラルルニ至ツテ始メテコレヲ知レリ。既ニコレヲ用フベキヲ知ラズ、故ニ道德的ニ之レヲ蔑視スルガ如キ觀念ハ固ヨリ寸毫モアルコトナカリシナリ。和銅以來頻リニ錢ノ通用ハ獎勵セラレ、元正天皇ノ朝ニハ調庸モ亦錢ニ換ヘシメ、又蓄錢叙位ノ法ヲ設ケテ、無位白丁モ蓄錢七貫乃至十貫ナレバ位ニ叙セララルヲ得、郡司ノ清廉ニシテ職務ニ堪ヘタルモ蓄錢六貫ニ滿タザレバ遷任ヲ得ザルコトト定メラル。朝廷亦コレヲ神佛ニ奉獻シ又諸臣諸民ニ賜ヒ、諸臣亦コレヲ朝廷ニ奉獻スルアリ。カクシテ錢ノ使用ガ次第ニ行ハレ、蓄錢ノ風ト金錢慾トコノ間ニ於テ徐々トシテ發達シツツアリキ。奈良朝ノ頃既ニ錢ヲ以ツテ貸金ヲ營ミ其利ニヨツテ妻子ヲ養ヒシ僧アリキ。「南無銅鐵萬貫白米萬石美女福德」ト一心ニ觀世音ニ祈願シテ遂ニ米錢好女福德願ノ如ク授ケラレタリトイフ冥加男モアリキ。降ツテ備中ノ國ニ錢ヲ商ヒテ富ヲ致セシ大領ノ一族モアリキ。一斑以ツテ全

豹ヲ推スニ難カラズ。

註(一) 日本靈異記

(二) 今昔物語

カクノ如クニシテ農業ノ進歩、貨幣ノ流通及ビ蓄積ノ習慣ノ發達ハ次第ニ貧富ノ懸隔ヲ生ジ庶民亦漸ク富ムモノヲ生ズ。靈龜元年五月、相摸・上總・常陸・上野・下野六國ノ富民千戸ヲ陸奥ニ移シ、六月又諸國人二十戸貨殖ヲ以ツテ富ヲ致セシモノヲ京師ニ移住セシメタルガ如キ、固ヨリ其ノ富貴族ニ比スベクモアラズ、其程度ハ稍餘裕アリトイフカ如キモノナリシヤモ知ルベカラザレドモ、少クトモ或程度ニ於テ下民亦其ノ富ヲ蓄積スルノ傾向ヲ生ジ來レルヲ知ルベシ。

然レドモ當時ニアリテハ未ダ猶錢ソノモノヲ最後ノ目的トシテ尊ブニアラズ、只ソノ有スル或ル欲望ヲ達セントスル手段トシテコレヲ欲シタルノミ。否彼等ノコレヲ貴シトシテ貯蓄スル、必ズシモコレヲ消費セントスルガ爲メニアラズ、只地方ノ徵官及ビ庶民ガ依ツテ以ツテ自己ノ社會的地位ノ向上ヲ計ラントスルニアルコト多々然リシナリ。カカルガ故ニ地方ノ吏民コレヲ死藏スルコト或ハ萬繼、終ニ腐爛シテ用ヲナサザルモノアルニ至ル。シカモ他方京師ノ貴族ハ其ノ飽クナキ欲求ヲ満足セシムルニ苛斂殆ンド虎ヨリモ猛ナルヲ敢テスルノ自由ヲ有ス。彼等ハソノ支出ニ應ジテ自由ニ收入ヲ計リ得ルガ故ニ貯蓄以ツテ他日ニ備フルノ必要ナク、得ルニ從ツテ之ヲ費シ、消費スルニ從ツテ又コレガ收入ヲ計リシナリ。加フルニソノ生レナガラニ得タル社會的地位ハ蓄錢以ツテ官位ヲ買フノ必要ヲ見ズ。故ニ彼等ハ只消費ヲ知リテ貯蓄ヲ知ラズ、ソノ多年浪費

論說

我國ニ於ケル營利心ノ起源及ビ其ノ發達ニ就イテ

第六卷 (第二號 五九) 二二

ノ習慣ハココニ經濟的疲弊ヲ生ゼシメ京畿ノ間錢ノ流通大ニ澁滯スルニ至レリ。<sup>\*</sup>ココニ於テ延曆十七年令シテ蓄錢ヲ禁ジタレド、蓄錢賢官・死藏閉塞ノ弊ハ依然トシテヤマス、其ノ風ノ成ス所竟ニ武士階級勃興ノ一因トナルニ至レリ。

註\* 三貨圖説

吾人ハ以上奈良朝ヨリ平安朝ニ至ル我國民ノ財産慾・營利慾・金錢慾ノ一斑ヲ述ベタリ。而シテソガ先ヅ貴族・歸化人・官吏・僧侶ノ間ニ最モ著シキ發達ヲ遂ゲタルヲ知レリ。シカモ彼等ノ財利ヲ欲スル、只ソノ有スル或ル欲求ヲ満足セシメンガ爲メノ手段タル消費財タルニ止リ、且ツコレヲ獲得シタル時更ニ進ンデコレヲ貯蓄スルノ風ニ乏シカリシヲ知レリ。而シテ錢ノ使用及ビ貯蓄ノ習慣ハ實ニ政府ノ獎勵ト、依ツテ以ツテ社會的地位ヲ得ントスル一部下級民ノ意向トニヨツテ醸成・發達シ來レルモノナルヲ見タリ。蓋シ無智怠惰動モスレバ其日暮シノ境ニ甘ンジテ將來ヲ思ハザルノ一般農民ノ多クガ當時殆ンド營利貯蓄ノ念ヲ有セザリシヤ想像ニ難カラズ。シカモ苦痛ニ堪ヘ障礙ヲ打破シ他日ノ爲メ今日ノ勤勞ヲ爲スノ精神の訓練ハ朝廷或ハ貴族ノ強制束縛ニヨツテ間接的ニ養成セラレツツアリシナリ。營利・貯蓄・勤勞凡ソ此等ノ諸精神ハ實ニカクノ如クニシテ生ジタリ。而シテ此等ノ諸精神ノ生成ハ我國ニ於ケル社會組織ニ一大變動ヲ與フルノ一因素トナルニ至レリ。即チ武士階級及ビ商人階級ノ分化コレナリ。吾人ハ便宜上先ヅ武士階級ノ精神ト營利衝動ノ發達トガ如何ナル關係ヲ有スルカヲ見ントス。